


ふりがな 氏名	かとう あず 加藤 杏咲	都道府県	東京都	
所属/肩書	慶應義塾大学法学部政治学科			
私のESD活動	現場活動による開発教育の意味と可能性の追求、そしてその計量的評価による認知と行動者の環の拡大			
ESD活動を表すキーワード	開発教育	貧困削減	権利	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

全日本模擬国連大会に出場したことを契機に、労働を強いられているが故に学校に通えず、教育を享受できていない子供の存在に大きな問題意識を抱いた。特に、女子教育の効果の著しさに驚いた。女子教育により、乳幼児死亡率の低下や GDP 成長率の上昇など、まさに「天の半分は女性が支える」という諺を証明する効果が数的に見えていた。この現状を 1 人でも多くの、多様な層の人に伝えたい、結果として継続的な現状改善につなげたい。この想いが私を突き動かした。フォーラムや勉強会など、一定程度の問題意識を持った人だけを対象にしない活動をしたい、と思った私が取り組んだことが、Ethical Fashion Show の開催だった。

Ethical Fashion とは、社会に対して倫理的な服を選択して着ることである。児童労働をさせていないと認定された服飾店や、フェアトレードを徹底した服を選択することによって、社会や意識を変えていける。私は、このおしゃれの背景に、全員が教育を享受できる社会実現をみていた。

この習慣を広めるべく、私は 2014 年 12 月、国際展示場にて Ethical Fashion Show を開催した。服飾専門学校との共同企画として動き出したこの企画には、多様な企業の方々からの御協力を得ることができ、当日着用する服やアクセサリーまで全て提供いただけた。当日、国際展示場のブースは満席となり、立ち見の方までいる盛り上がりを見た。

この、社会問題を誰もが取り組みやすいファッションという切り口でアプローチしたことが評価され、当日の様子は朝日新聞デジタルに掲載され、公明党山口夏雄氏にも観覧いただけた。社会問題への関心の喚起は様々な方法がとられるべきであり、分かりやすさ、楽しさから ESD への行動に繋がっていくべきである。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私は「全ての人が質の高い教育の恩恵を享受」できるようにするために、現場での草の根的な活動に力を入れつつ、認知拡大にも努めたい。これまで、ESD の活動が机上であったことが多かった分、様々な知識を得てきた。だからこそ、次は現地にて活動を実際に行い、これまで積み重ねてきた土台を活かす活動に重点を置きたい。実際、4 月からスリランカでの教育プロジェクトを動かし始めており、夏春それぞれ 6 週間活動することが決定している。

また、自分が活動するだけで終わらせず、ESD への認知を広げ、活動者の輪を広める活動にも従事したい。日本において、教育の重要性は感覚的に認知されているものの、その必要性を実感を持って知っている人は少ない。この理由として、教育の成果が数値化しづらいからだと考える。そのため、中室牧子氏が教育に定量的評価軸を取り入れた例を参考にしつつ、マイクロ計量経済学理論をもとに活動報告を出し、認知拡大につなげたい。